

新潟市国土強靱化地域計画【救援・代替機能の強化】の進行状況

【分野①】広域交通インフラの整備・強化 -道路-

施策の推進方針	広域交通ネットワークの中心として位置づけられる高規格道路及び幹線国道は、平時の物流に対応し、本市の拠点性を高めるとともに、災害時や緊急時に重要な道路ネットワークを形成するため、広域交通インフラの整備・強化を促進する。
---------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

No.	施策	平成26年度の状況	平成27年度末見込み	担当部署
1	日本海沿岸東北自動車道の村上市（朝日まほろばIC）から山形県鶴岡市（あつみ温泉IC）間のミッシングリンクの解消による日本海国土軸の強化。	【主な取組】 ・調査推進：環境調査、測量、地質調査、道路設計	【主な取組】 ・調査推進：環境調査、地質調査、道路設計 ・用地買収着手	道路計画課 (北陸地方整備局 道路部 道路計画課)
2	磐越自動車道の太平洋側との連携強化。 (交通安全対策等に関する車線拡幅事業)	【主な取組】 ・事業区間：三川～安田IC間 ・事業延長：約2.5km ・工事進捗率：約4割	【主な取組】 ・事業区間：三川～安田IC間 ・事業延長：約2.5km ・工事進捗率：約8割	道路計画課 (東日本高速道路株式会社)
3	本市と関東を結ぶ危険物積載車両が通行できる唯一の路線となっている国道17号の新三国トンネルの整備による関東圏との連携強化。	【主な取組】 ・調査推進：道路設計、環境調査、埋蔵文化財調査 ・用地買収推進 ・工事推進 ◆三国防災事業全体の進捗率 約58%	【主な取組】 ・調査推進：道路設計、環境調査 ・用地買収推進 ・工事推進：三国トンネル工 ◆三国防災事業全体の進捗率 約67%	道路計画課 (関東地方整備局 高崎河川国道事務所)
4	地域高規格道路である新潟山形南部連絡道路（国道113号）の着実な事業促進と未着工区間の早期事業化による太平洋側の連携強化。	【主な取組】 鷹ノ巣道路 ・用地買収推進 ・工事推進：改良工	【主な取組】 鷹ノ巣道路 ・用地買収推進 ・工事推進：改良工、橋梁下部工	道路計画課 (北陸地方整備局 道路部 道路計画課)
5	国道7号万代島ルート線などの直轄国道の整備による、本市の骨格となる放射状の幹線道路ネットワークの形成。	【主な取組】 栗ノ木道路 ・用地買収推進 ・工事推進：改良工 紫竹山道路 ・用地買収推進 ・工事推進：改良工	【主な取組】 栗ノ木道路 ・用地買収推進 ・工事推進：改良工 紫竹山道路 ・用地買収推進 ・工事推進：改良工、橋梁上部工	道路計画課 (北陸地方整備局 道路部 道路計画課)
6	新潟港東港区と直結する新潟中央環状道路の整備による広域拠点の連携強化及び幹線道路ネットワークの形成。	【主な工事工区】 ・横越バイパス(L=1.6km) 整備推進 ・中ノ口工区(L=2.3km) 整備推進	【主な工事工区】 ・横越バイパス(L=1.6km) 整備推進 ・中ノ口工区(L=2.3km) 整備推進 ・明田工区(L=0.8km) 整備推進	道路計画課

【分野①】広域交通インフラの整備・強化 -港湾-

施策の推進方針	国際拠点港湾としての平時の機能強化とともに、太平洋側の大規模災害における、被災港湾の代替性を確保する。そのため物資やエネルギー等の供給ルートを確認するための機能充実や被災地への円滑な物資の供給を行う体制の整備、耐震化や津波対策など、港湾機能の強化に向けた取組を進める。
---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

No.	施策	平成26年度の状況	平成27年度末見込み	担当部署
1	東南アジア航路や極東ロシア航路の再開に取組むとともに、コンテナ貨物需要の増加やコンテナ船の大型化などに対応したターミナルの拡張や泊地の増深（東港区西ふ頭3号岸壁の水深1.4m化）などの機能強化により、首都直下地震などの大規模災害時のリダンダンシー機能の確保を促進する。	事業化に向けた要望活動を実施	事業化に向けた要望活動を実施	都市政策部 港湾課
2	日本海国土軸の形成等を図るため、内貿ユニット貨物の海上輸送ネットワーク構築に向け必要となる岸壁等の整備を促進する。	なし	なし	都市政策部 港湾課
3	新潟港の耐震強化対策として、耐震強化岸壁の整備を促進する。	なし	事業化に向けた要望活動を実施	都市政策部 港湾課
4	新潟港東港区及び新潟港西港区の静穏度を高め、船舶の安全な運航や安定した港湾荷役が確保できるよう、防波堤の整備を促進するとともに、新潟港西港区の長距離フェリーなどの安全確保のため航路・泊地の浚渫を促進する。	防波堤の整備	防波堤の整備	都市政策部 港湾課
5	東港区西ふ頭地区と白新線が結ばれるよう臨海鉄道西線の延伸改良を行い、コンテナ等の貨物輸送における環境負荷の低減、輸送モードの多様化及び有事の際の輸送機能の強化を促進する。	事業化に向けた要望活動を実施	事業化に向けた要望活動を実施	都市政策部 港湾課
6	首都直下地震などにより、太平洋港湾が被災した場合の代替輸送が円滑に進むよう交通・物流事業間の連携強化や訓練の取組を促進する。	官民による訓練の実施 （首都直下地震に対応した代替輸送訓練(会場：東京) 情報収集	国による訓練の実施 （首都直下地震に対応した代替輸送訓練(会場：東京) 情報収集	都市政策部 港湾課

【分野①】広域交通インフラの整備・強化 -空港-

施策の推進方針	本市の拠点性向上に向け、また太平洋側の災害時に、それらの地域の空港の代替として機能を発揮できるよう、新潟空港の機能強化と耐震性向上を図り空港の拠点性を高める。
---------	---------------------------------------------------------------------------------

No.	施策	平成26年度の状況	平成27年度末見込み	担当部署
1	太平洋側の空港の代替機能など、災害時に新潟空港の果たす役割がますます重要になっていることから、災害時の機能確保のため、滑走路の液状化対策など耐震性向上を図るとともに、海岸に隣接していることから津波被災時の機能確保についての取組を促進する。	進捗率：37.6%	進捗率：57.26%	都市政策部 空港課
2	新潟空港では、降雪のある冬期に、航空機の運航への影響が生じており、安定運航の確保及び安全性の向上を図ることが重要となるため、除雪車等の機材増強や除雪体制の強化を促進する。	【東京航空局】 凍結防止剤散布車を更新し、機材の強化を行った	同左の運用による安定運航の継続	都市政策部 空港課
3	中国のハルビン線や極東ロシアのハバロフスク線、ウラジオストク線などの特色ある路線を含む国際7路線を有するとともに、国内の地方ネットワークを支える8路線が運航し100万人規模の利用が有り市民活動並びに経済活性化に大きく寄与していることから、特色ある既存国際線及び地方路線の維持・拡充を促進する。	新潟空港整備推進協議会や新潟空港オンリーワン路線活性化実行委員会を通じて、各航空会社や旅行会社などへの支援のほか、市単独事業として、新規路線就航促進チャーター支援事業や既存路線拡充促進事業などへの支援を行った。	左記の事業に加え、羽田空港への新規就航や、修学旅行向け機材大型化を実現するよう航空会社に働きかけるため、新たに補助金制度を創設しセールスを行うなどしている。	都市政策部 空港課
4	長期的な視点では、中国との交流が一層拡大すると考えられることから、中国首都圏及び華南方面との交流拡大に対応した路線の開設、また、LCC就航やビジネスジェット受け入れに向けた空港使用料の一層の低減などの取組を促進する。	エアライン・旅行会社・中国地方政府などに対してセールスを続けている。	同左	都市政策部 空港課
5	新潟駅から新潟空港へのアクセス強化に向けて、県と連携して改善策の検討を行う。	研究会を実施（2回）	検討委員会を開催（2回） 軌道系アクセスに係る調査結果を踏まえた検討。	都市政策部 空港課

【分野①】広域交通インフラの整備・強化 -鉄道-

施策の推進方針	総合交通体系確立の基幹をなすとともに、災害時や緊急時における人や物資などの輸送路として大きな役割を果たす、鉄道ネットワーク強化に向けての取組を推進する。
---------	------------------------------------------------------------------------------

No.	施策	平成26年度の状況	平成27年度末見込み	担当部署
1	白新線・羽越本線の安定輸送の確保並びに高速化や、上越新幹線駅と北陸新幹線駅間の輸送体制の維持・強化は、利便性の向上とともに日本海国土軸の強化による太平洋国土軸とのダブルネットワークの構築に繋がることから、代替補完機能確保するためにも鉄道ネットワークの強化を働きかけていく。	【要望活動】 ○鉄道関係同盟会による要望 ○新潟県鉄道整備促進協議会による要望	【要望活動】 ○鉄道関係同盟会による要望 ○新潟県鉄道整備促進協議会による要望	政策調整課
2	白新線・羽越本線の安定輸送の確保並びに高速化や、上越新幹線駅と北陸新幹線駅間の輸送体制の維持・強化は、利便性の向上とともに日本海国土軸の強化による太平洋国土軸とのダブルネットワークの構築に繋がることから、代替補完機能確保するためにも鉄道ネットワークの強化を働きかけていく。	・シンポジウムの開催（鶴岡市） ・促進大会の開催およびJR、国などへの要望活動の実施	・シンポジウムの開催（由利本荘市） ・促進大会の開催およびJR、国などへの要望活動の実施	都市交通政策課
3	太平洋側との横断軸を形成する磐越西線は重要な路線であり、災害時等における臨時的な貨物輸送を担う上でも、より防災強度を高め安定輸送を目指す対策の実施を働きかけていく。	・新潟県鉄道整備促進協議会を通じた要望活動の実施（荒天時の安定運行確保）	・新潟県鉄道整備促進協議会を通じた要望活動の実施（荒天時の安定運行確保）	都市交通政策課
4	新潟駅付近連続立体交差事業及び新幹線・在来線同一ホーム乗り換え事業は、日本海国土軸と首都圏との連携強化を図る重要な施策であり、乗り換え時間の短縮など利用者の利便性向上とあわせ日本海国土軸の強化にも資するため、本事業を着実に推進していく。	【主な取り組み】 調査・設計 3%（事業費進捗率）	【主な取り組み】 準備工事着手 5%（事業費進捗率）	新潟駅周辺整備事務所

【分野②】産業機能の集積 -産業機能集積-

施策の推進方針	<p>・本市の産業振興を図るとともに、今後想定される首都直下地震や南海トラフ地震などに備え、首都圏や太平洋側に集中する企業や生産拠点のリスク分散の受け皿となるため、企業立地基本計画を推進し、航空機・自動車等機械・金属関連産業、食品・バイオ関連産業、高度ITシステム・利活用関連産業、新潟港活性化・エネルギー関連産業など、地域の強みと特性を活かした業種の移転・集積を進める。</p> <p>また、企業立地促進法に基づく支援措置の拡充を国及び新潟県へ要望することとあわせ、本市への立地助成制度を拡充する。</p> <p>・本市への企業移転、新設、拡充などに対応するため、必要とする用地や建物などのニーズを把握し、その確保に向けて関係団体等と検討を進めていく。</p> <p>・本市の広域交通結節機能をはじめとする拠点性や首都圏との直結性、さらには暮らしやすさを首都圏に対しアピールし、首都圏企業の本社機能の一部移転や生産・物流機能も含めた地方拠点の新設・拡充を促進する。そのため、企業の地方移転を促進する支援制度の拡充を国に働きかけて行く。</p>
---------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

No.	施策	平成26年度の状況	平成27年度末見込み	担当部署
1	企業の地方拠点強化のため、企業立地基本計画の指定集積業種の市外からの企業誘致を推進します。	<p>・県外企業の訪問や展示会出展を通じ、本市をPRし誘致可能性企業を発掘、誘致活動を実施。 誘致件数：7社</p>	<p>・県外企業の訪問や展示会出展を通じ、本市のPR、とりわけ、新たな成長産業であるニューフードバレーや航空機産業をPRし誘致可能性企業を発掘、誘致活動を実施。 誘致件数：10社（目標値）</p>	企業立地課
2	本市への立地を検討している企業のニーズに応じ、必要とする物件候補を紹介します。	<p>・不動産会社等に物件を照会し、候補地を市ホームページに掲載。</p>	<p>・不動産会社等に物件を照会し、候補地を市ホームページに掲載。 ・県宅建協会との協定に基づき、企業ニーズごとに候補物件の有無を照会。</p>	企業立地課
3	企業の地方拠点強化のため、企業立地基本計画の指定集積業種の市外からの企業誘致を推進します。	<p>・県外企業の訪問や展示会出展を通じ、本市をPRし誘致可能性企業を発掘、誘致活動を実施。 誘致件数：7社</p>	<p>・県外企業の訪問や展示会出展を通じ、本市のPR、とりわけ、新たな成長産業であるニューフードバレーや航空機産業をPRし誘致可能性企業を発掘、誘致活動を実施。 誘致件数：10社（目標値）</p>	企業立地課

【分野②】産業機能の集積 -成長産業の支援-

施策の推進方針	<ul style="list-style-type: none"> ・航空機部品の国内の新たな生産体制の構築を目指し、多工程一貫生産共同工場の整備を支援するほか、新たな産業創出として、産業用無人飛行機システムの開発支援など、中小企業を核とした産学官金連携事業を推進していく。 ・航空機産業クラスターの形成推進のため、航空機産業への参入支援として国際認証取得等助成に加え、研究支援機能を兼ね備えたインキュベーション共同工場整備運営に対する補助や、無人飛行機システムの産学官開発プロジェクトを推進する。 <p>さらに航空機部品製造拠点を形成するため設備投資等の支援を促進するとともに、新潟空港周辺への航空機関連産業の立地について国・県と連携し推進していく。</p>
---------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

No.	施策	平成26年度の状況	平成27年度末見込み	担当部署
1	中小企業による航空機部品の共同受注（生産）と新産業として期待する無人飛行機システム（UAS）の開発を支援します。	<ul style="list-style-type: none"> ・航空機部品の共同受注を目指す企業グループへの支援を実施。 <p>戦略的複合共同工場への参画企業数：7社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略的複合共同工場の竣工に併せて支援センターを設置。 ・設備投資補助金の創設と実施により支援を行う。 <p>戦略的複合共同工場への設備導入企業数：2社</p>	企業立地課
2	航空機産業クラスターの形成推進に向け、各補助制度の適用及びセミナー等の開催などを支援し、航空機関連企業の集積を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・無人飛行機システム（UAS）研究会の実施。 ・国内外での航空関連展示会への出展を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略的複合共同工場に設置したイノベーション支援センターによる各種セミナーの実施。 ・東京国際航空シンポジウムに併催し、ビジネスフォーラムを開催。 <p>フォーラム参加者数：104名</p>	企業立地課

【分野③】エネルギー拠点 -石油製品の備蓄、及び供給体制の再編-

施策の推進方針	<p>太平洋側での大規模災害発生時には、ロシアや韓国などからの石油製品の大量輸入が想定されることから、日本海側拠点港である新潟港周辺のエネルギー関連施設を重点的に整備し、早期にエネルギー供給源の多様化を図ることが有益であり、石油製品備蓄機能の強化を働きかけていく。(国・県・民間)</p> <p>国土強靱化を進める上でのリスク分散の観点から、新潟港東港区に効率処理が可能な次世代型製油所の整備の必要性を訴えていく。(国・県・市・民間)</p> <p>天然ガスより可搬性に優れる石油製品は、大規模災害発生後の初期段階において、特に高いニーズが想定されることから、備蓄体制の強化とあわせ、課題の多い輸送体制について検討を進める。(国・県・市・民間)</p>
---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

No.	施策	平成26年度の状況	平成27年度末見込み	担当部署
1	石油製品の備蓄、及び供給体制の再編	<ul style="list-style-type: none"> ●石油製品備蓄や次世代型製油所の必要性について、国の施策・予算に対する提案・要望「日本海側エネルギーインフラ等の整備」 ●エネルギー戦略特区提案申請 	<ul style="list-style-type: none"> ●石油製品備蓄や次世代型製油所の必要性について、国の施策・予算に対する提案・要望「日本海側エネルギーインフラ等の整備」 ●エネルギー戦略特区提案申請 	経済部産業政策課

【分野③】エネルギー拠点 -LNGの備蓄、及び供給体制の強化-

施策の推進方針	<p>新潟市周辺には、LNGの受入基地に加え、東北・関東に繋がるガスパイプラインを有しているが、エネルギー供給拠点が集中している首都圏での大規模自然災害に対するバックアップを想定すると、現在のガス供給設備では能力が十分でないことから、災害時の安定供給を念頭に置いた大規模LNG受入基地の整備を働きかけていく。</p> <p>ガスパイプラインについては、経済産業省総合資源エネルギー調査会天然ガスシフト基盤整備専門委員会の報告書で示された仮想ルート（長岡―桶川間）の計画を、新潟市まで延伸し新潟港東港区のLNG基地に繋ぐことで安定供給に寄与できる。</p> <p>加えて、県内に複数ある枯渇ガス田を天然の備蓄庫として、LNG気化ガスが貯蔵できれば、国産天然ガスをあわせた資源調達元の多角化により、有事・平時双方における安定供給及びコスト面においても実現性が高いと考えられる。このことから、エネルギーインフラ整備の促進とあわせ、枯渇ガス田を備蓄庫として活用する多重性供給体制の構築を提案していく。（国・県・民間）</p>
---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

No.	施策	平成26年度の状況	平成27年度末見込み	担当部署
1	LNGの備蓄、及び供給体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ●エネルギー戦略特区提案を再申請 ●全国LNG協議会開催 ●関東地方産業競争力協議会で首都圏バックアップを提起 ●国に対する要望 	<ul style="list-style-type: none"> ●エネルギー戦略特区提案を再々申請 ●表層型メタンハイドレート研究会参加 ●枯渇ガス田等に関する研究会の情報収集 ●国に対する要望 	経済部産業政策課

【分野④】食料拠点 -地域特性を活かした食料拠点の向上-

施策の推進方針	<ul style="list-style-type: none"> ・農業分野の国家戦略特区の指定を受ける中で、農業の強みを生かして食品産業と連携しながら「ニューフードバレー構想」を一層加速させ、農業・食品産業の拠点を目指すとともに、食料供給拠点としての役割を果たすため検討を進める。 ・日本海側の食の拠点を目指し、北東アジア等に向けた農産物や食品の輸出を促進するとともに、輸出入基地化を推進する。 ・また、本市の強みでもある食品関連産業の集積を促進し、首都圏等における災害発生時に寄与する代替機能向上に努める。 ・新潟大学フードサイエンスセンターを中心に立ち上がった「日本災害食学会」などにおいて、高齢者や患者に適応できる災害食の研究を促進する。
---------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

No.	施策	平成26年度の状況	平成27年度末見込み	担当部署
1	ニューフードバレー関連事業 国家戦略特区推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆庁内4部1行政委員会においてニューフードバレー構想の推進に係る37事業を実施 ◆規制緩和の活用 【以下主な取り組み】 ・1社の特例農業法人設立（0-ソファ-ム新潟） ・3件の信用保証制度の適用 	<ul style="list-style-type: none"> ◆庁内4部1行政委員会においてニューフードバレー構想の推進に係る31事業を実施 ◆規制緩和の活用 【以下主な取り組み】 ・3軒の農家レストラン設置（7ジ タファ-ムほか2社） ・9社の特例農業法人設立（セブ ソファ-ム新潟ほか8社） ・9件の信用保証制度の適用 	ニューフードバレー推進課
2	北東アジア等に向けた農産物や食品の輸出を促進	<p>香港、台湾、シンガポール企業との商談会の開催等。</p> <p>参加社数 45社・団体</p>	<p>香港、シンガポールで「新潟の食」に特化した商談会を開催。</p> <p>東アジア諸国から食品バイパー企業を招へいし商談会を開催。</p> <p>参加社数 47社・団体（見込）</p>	国際課
3	北東アジア等に向けた農産物や食品の輸出促進と輸出入基地化の推進	<p>コメの輸出実績を把握し、来年度の輸出数値目標を市として決定する。平成26年度については数値目標140トン。</p>	<p>コメの輸出増加量を確認し、次年度の輸出数値目標を市として決定する。平成27年度は数値目標190トン。</p>	食と花の推進課
4	国家戦略特区推進事業 アグリビジネス誘致推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆規制緩和の活用 【以下主な取り組み】 ・1社の特例農業法人設立（0-ソファ-ム新潟） ・3件の信用保証制度の適用 ◆革新的農業の実証 ・電通 ・ぐるなび ・パナソニック 	<ul style="list-style-type: none"> ◆規制緩和の活用 【以下主な取り組み】 ・3軒の農家レストラン設置（7ジ タファ-ムほか2社） ・9社の特例農業法人設立（セブ ソファ-ム新潟ほか8社） ・9件の信用保証制度の適用 ◆革新的農業の実証 ・NTTドコモ ほか 	ニューフードバレー推進課
5	連携の可能性を検討	<p>日本災害食学会において、以下の取り組みを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害食の認証制度 ・研究発表会 ・展示会への出展 	<p>日本災害食学会において、以下の取り組みを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害食の認証制度 ・研究発表会 	ニューフードバレー推進課

【分野⑤】地域間連携の強化

施策の推進方針	今後、発生が危惧される首都直下地震や南海トラフ地震などの大規模災害に備えて、首都圏や東海地域が被災した場合に円滑な支援ができるよう、また本市を含む日本海側の都市が被災した場合の支援や受援を考慮して、災害時における相互応援協定を締結している自治体と連携強化を図る。
---------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

No.	施策	平成26年度の状況	平成27年度末見込み	担当部署
1	首都圏や太平洋側の諸都市との連携関係の構築、及び大規模災害発生時に迅速かつ的確な救援・支援ができるように連携の強化。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の協定 川崎市、横浜市、さいたま市、前橋市、高崎市 ・ 集団の協定 21大都市災害時相互応援に関する協定、自治体防災情報ネットワーク連絡会災害時応援に関する協定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな協定締結 西条市（H27.6.13） いわき市（H27.9.24） ・ 協定締結都市との連携 連絡会議の開催：3回 相互の訓練に参加：4回 	危機管理防災局